



山岳遭難者の救助に向けた 技術開発と今後の展望



— 日本勤労者山岳連盟事務局長、登山者位置検知システムの
研究者と機器開発者が登壇 —

平成29年5月31日(水)

13時30分～16時00分

富山県民会館 4F 401号室

富山県富山市新総曲輪4-18

近年の登山ブームで登山愛好者が増えています。しかしながら山岳地帯では携帯電話が必ずしも利用できません。事故発生時に登山者と容易に連絡ができず、携帯電話の電波を使った位置情報も利用できないことが課題となっています。

総務省では平成28年8月に省令を改正し、150MHz帯の電波を使用した動物検知システムの用途を人に拡大、これを受けて北陸総合通信局は、登山者位置検知システムの有効性を評価するため、富山県立山を中心とした携帯電話が通じない山岳地帯で実証試験を行いました。

本セミナーでは、近年の山岳遭難事故の現状を紹介し、登山者位置検知システムの実証実験の結果、開発したシステムの概要、小型軽量化などの課題と改善点、今後の展望を報告します。

講演1 「山岳遭難事故の現状とその対策」

(13:35～14:20)



日本勤労者山岳連盟
事務局長 川嶋 高志 氏

青年期より登山を始めて40余年。東京都勤労者山岳連盟の事務局長や日本山岳レスキュー協議会幹事を経て、平成16年から現職。東京都勤労者山岳連盟救助隊の副隊長としても活動している。本セミナーでは、近年の山岳遭難事故の現状や自身の経験を活かした事故の未然防止策について紹介する。

講演2 「登山者位置検知システムの山岳遭難者救助への有効性」

(14:20～15:05)



公立大学法人富山県立大学 工学部 電子・情報工学科
准教授 石坂 圭吾

富山県立大学工学部を卒業。同大学の講師を歴任し、平成24年より現職。専門は、電波工学、宇宙プラズマ工学。「登山者位置検知システムの利用モデル評価」では、実証試験の計画・実施など中心的な役割を果たす。本セミナーでは、立山周辺で行った登山者位置検知システムの実証実験の結果、同システムが山岳遭難者救助に有効であることを報告する。

講演3 「登山者位置検知システム用機器の開発と今後の課題」

(15:15～16:00)



北陸電気工業株式会社 開発本部 アドバンスデバイス開発部
主任 本真 義博 氏

「登山者位置検知システムの利用モデル評価」において使用したシステム用機器の開発・製造に携わり、実証試験ではシステム運用の責任者として参加。

本セミナーでは、開発したシステム用機器の概要、小型軽量化などの課題と改善点、今後の展望を報告する。

申し込み先

北陸情報通信協議会のホームページ(<http://www.hokurikutelecom.jp/>)よりお申し込み下さい。

問い合わせ先

総務省北陸総合通信局 無線通信部 企画調整課

TEL (076)233-4470 FAX(076)233-4489

freq-hokuriku@soumu.go.jp 定員100名 参加費無料。締め切り 5月30日(火)

主 催
協 賛

総務省北陸総合通信局 公立大学法人富山県立大学 北陸情報通信協議会
情報通信月間推進協議会